

**ドラッグストアに勤務する
管理栄養士の在り方に関するアンケート調査より**

江口 澄子

(元) 鈴鹿医療科学大学 特任准教授

寄 稿

ドラッグストアに勤務する 管理栄養士の在り方に関するアンケート調査より

江口 澄子

(元) 鈴鹿医療科学大学 特任准教授

キーワード： ドラッグストア, 管理栄養士の知識・能力, 健康情報拠点, 夢

要 旨

定年退職にあたって、紀要委員会からご依頼をいただき、もともと教育者（研究者）としての経験を積んでいない私
でいいのか迷いながら、管理栄養士先輩として、学生へのエールのつもりで綴ることとした。本学は、医療系の大学で
あるので、就職は当然「病院」「老人保健施設」を選ぶものと思っていたが、昨今は「ドラッグストア」希望が多い。ド
ラッグストア勤務管理栄養士が増加しているが、その勤務実態は不明であることが多く、仕事内容、要求される知識・能力
に関する調査・研究も極めて少ない。そこで、つたない私の修士論文から、「ドラッグストア」に勤務する管理栄養士に
要求される知識・能力・夢などをまとめてみた。学生時代に学んで役立つ教科や職場で必要とされる能力、先輩たちが
望んでいる地域で役立つ管理栄養士の在り方を参考に、学生時代に学ぶべき内容を理解し、目標にしていれば
幸いである。

はじめに

高齢者人口がピークとなる 2042 年に向けて、増大する社会保障費・超少子高齢社会への対応として「高齢者の低栄養・フレイル対策」「地域包括ケアシステム」が、各市町村で実施されることになり、管理栄養士への期待が大きくなっている。また、2013 年「日本再興戦略一予防・健康管理に関する新たな仕組みづくり」の中で、セルフメディケーション推進のために薬局・薬剤師を活用した「健康情報拠点推進事業」が明記され、「健康サポート薬局」が位置付けられたことにより、ドラッグストアに多くの管理栄養士が雇用されるきっかけになった。住民からの健康の維持・増進に関する相談に適切に対応し、受診勧奨や紹介等を円滑に行う為、薬剤師以外の他職種が必要に応じて対応することが必要となり、ドラッグストア勤務の管理栄養士が増加しているが、その業務又は勤務実態は不明であることが多い。また、仕事内容、要求される知識・能力に関する調査・研究¹⁾も極めて少ない。

このアンケート調査では勤務実態、要求される知識・能力・夢等を明らかにした。

1. 方法

2019 年 5 月にドラッグストア(株)スギ薬局に勤務する勤務年数 1 年以上の管理栄養士で、同意を得られた 300 名(有効回答 233 名)を対象として行った。調査の内容は「対象者の基本属性」、「仕事の内容」、「学生時代の学んでおくべき科目」、「学んで活かされていると感じている科目」、「学生時代に身につけておくべき能力」、「職場で求められている能力・知識」、「地域で働く意識」、「地域住民の健康情報拠点として実施するサービス」、「今後の夢(自由記述)」などについて 15 項目とした。

全ての質問内容は、自記式質問形式の質問用紙を用いて集合法で実施した。統計解析は、統計解析ソフト IBM SPSS Statistics Ver24.0 を使用した。自由記述の解析には、KH CODER²⁾による抽出語共起ネットワークを用いた。

2. 結果及び考察

1) 対象者の基本属性 (表 1)

平均年齢は 24.6 歳、勤務年数は 1 年目の者が (53 人) 23%、2 年目の者が (84 人) 36%、3 年以上の者は (96 人) 41%であった。女性が 90%以上を占め、殆どが未婚者であった。勤務場所は店舗勤務が (214 人) 92%と圧倒的に多く、本部は (19 人) 10%弱と少なかった。勤務の継続意志については、退職の意思がある者と一時的にやめようと思った者を合わせると (183 人) 80%に上り、ずっと続けたい者は (50 人) 20%と少なかった。

今回の結果には示していないが、85%以上の仕事が「販売」「商品の紹介や情報提供」「レジ業務」「商品陳列」「POP 作成」「売り場作成」「商品発注」であり、管理栄養士の専門性を活かした仕事である「栄養指導」は 75%と比較的高かったが、より専門的技術を必要とする「講師活動」「栄養価計算」、「献立作成」は 10%未満と低かった。「販売」「レジ業務」等の店舗業務が大半で、管理栄養士の専門性を活かした「献立作成」などの業務

表 1 対象者の基本属性

		n=233人 (%)	
項目			
平均年齢±SD (歳)		24.6±2.0 : 23~35歳	
性別	男	23	(9.9)
	女	210	(90.1)
勤務年数	1年	53	(22.7)
	2年	84	(36.1)
	3年以上(3~11年)	96	(41.2)
結婚	既婚	14	(6.0)
	未婚	219	(94.0)
学歴	大学院	3	(1.3)
	大学	227	(97.4)
	専門学校	3	(1.3)
勤務場所	店舗	214	(91.9)
	本部	19	(8.1)
継続意志	退職の意思がある	77	(33.0)
	一時的にやめようと思った	106	(45.5)
	ずっと続けたい	50	(21.5)
		人	(%)

対象者の基本属性を回答者数及び比率で示したものである。

が10%未満と少ないことが継続意志を下げている原因と推察される。しかし、勤務年数が3年以上になると、メニュー提案」「講師活動」「献立作成」など、栄養士の専門技術を活かした業務が増え、ずっと続けたいという継続意志がある者も同様に、業務内容は、「栄養計算」「社員教育」「メニュー提示」が多く、「売り場作成」「事務作業」は少ないことが認められた。

勤務の継続意志を高めるためには、勤務年数3年までに、管理栄養士の専門性を活かしたやりがいのある仕事ができる環境づくりが必要とされる。そのためには、経験を積んだ管理栄養士の下で、業務内容を改善する必要性が示唆される。

2) 学んで活かされていると感じている科目 (図1)

「臨床栄養学」が(183人)80%、「基礎栄養学」(160人)70%、「応用栄養学」(149人)65%、「栄養教育論」(138人)60%の者が活かされていると感じていた。「食

品学」は(90人)39%、調理学(59人)26%と低く、「経営学」(2人)や「食品流通論・食料経済学」(1人)は1%未満と非常に低かった。疾病や健康との関係に対応する場面が多いことが推測される。

図1には示していないが、勤務年数が1年目、2年目、3年以上のいずれにおいても最も活かされていると感じている科目として「臨床栄養学」が挙げられ、勤務年数の増加に伴いその割合が増加し、3年以上では83%の者が活かされているとの結果を得ている。また、「栄養教育論」は、勤務年数1年目では72%の者が活かされていると感じていたが、2年目では55%、3年以上では56%と年数を重ねるごとに低くなっていた。勤務年数間で大きな差が見られたのは、「調理学」であり、勤務年数1年目28%、2年目は14%、3年以上は21%であった。上位の3科目は「臨床栄養学」「基礎栄養学」「応用栄養学」であったが、いずれも本部勤務者のほうの割合が高い。逆に「栄養教育論」「食品学」は店舗勤務者のほうが高かった。勤務年数や、勤務場所によって、活かさ

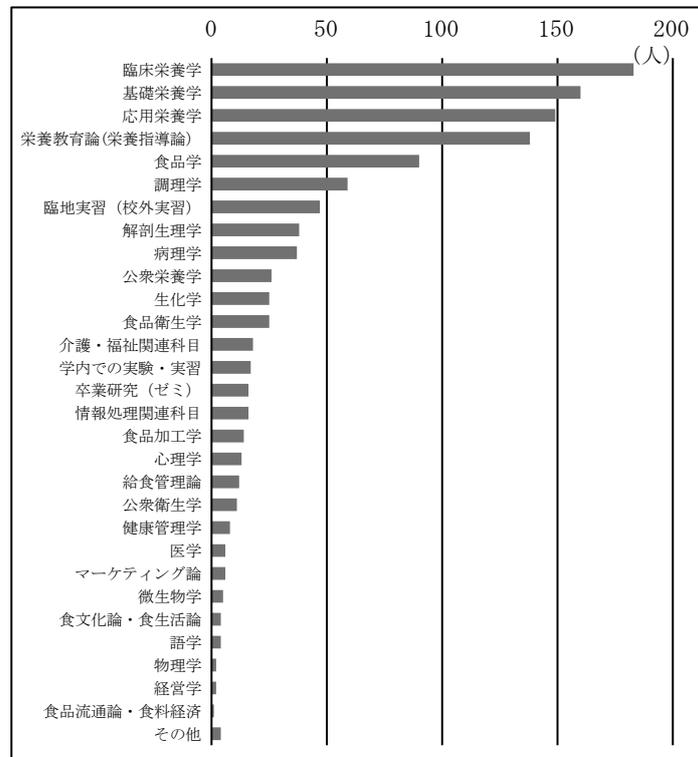


図1 学んで活かされていると感じている科目 (n=233人)
 学生時代に学んだ科目のどれが仕事で活かされているかをカウントした。
 複数回答は可とした。

れていると感じる科目に差が出るという結果も得ている。

3) 学生時代に身につけておくべき能力 (図 2)

「コミュニケーション能力」は(109人)47%、「マナー・礼儀」(103人)45%、「プレゼンテーション能力」(102人)44%が社会人として備えておくべき能力として上位であった。次いで、「専門的知識」(91人)39%、「語学力」(76人)が33%となっており、「人間性」は(36人)16%や「ディベート能力」(24人)10%と低かった。コミュニケーションやマナー・礼儀のように社会人として備える基本的な能力が上位だったのは、店舗ではお客様との対人関係が重要であることに起因していると考えられる。

図2には示していないが、本部勤務者には「問題解決能力」「ディベート能力」「OA・IT能力」が加わり、仕

事内容から接客以外の知識の必要性を感じていることが推察される結果を得ている。また、何故そう思うかについて自由記述を解析した結果からも、店舗勤務者と本部勤務者ともに、来客や企業に商品提案や特定保健指導をすることより、社会人として基本的なコミュニケーション能力やマナーが共通に必要とされることが確認できた。それに加え店舗勤務者には外国人の利用者と接する機会が増えたために語学力等が必要とされていた。一方、本部勤務者は、目上の者や社外者との接触の機会が多いことから敬語、礼儀が特に必要とされるとともに、互いに切磋琢磨する環境下におかれ、積極的に資格取得をしようとする前向きな姿勢があることが推察される。店舗勤務の者は利用者との接点で必要な能力が、本部勤務の者は取引先との交渉や講師活動で必要な能力が多く、店舗、本部という勤務環境との差が顕著に出た結果も得ている。

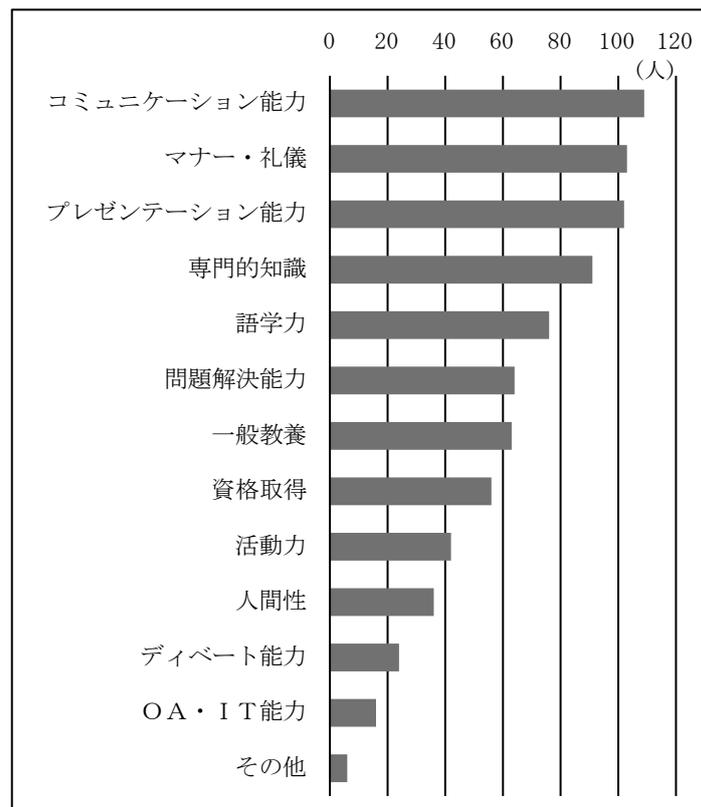


図2 学生時代に身につけておくべき能力 (n=233人)
学資時代に身につけておくと、就業時の接客に有益であるかをカウントした。複数回答可とした。

4. 職 場

1) 管理栄養士として求められている知識・能力 (図3)

「健康食品に関する知識」は(211人)91%や「サプリメントに関する知識・能力」(203人)88%の者が求められている知識・能力と感じていた。次いで、販売に関する「コミュニケーション能力」(181人)78%、「健康食品の説明・販売・比較に関する能力」は(172人)74%であった。栄養相談等で求められる「疾病と栄養・食事の関わりに関する能力」は(184人)79%、「栄養学・栄養・栄養素に関する知識」(180人)78%「栄養指導・食事指導に関する能力」(173人)75%、「健康食品の説明・販売・比較に関する能力」(172人)74%、

「健康相談・栄養相談に関する知識」(171人)74%、「薬と食品・食事の相互作用に関する知識」(166人)72%、「医薬品に関する知識」(165人)71%「ダイエットに関する知識」(165人)71%であった。来客者にアドバイスをするための食品・食事・運動・商品の知識とそれを伝えるための能力について、また相談に応えるためのカウンセリング能力やサポート能力も50%以上の者が求められている知識・能力であると答えている。管理栄養士の特技である「レシピ・メニュー・調理法に関する知識」は(97人)42%、「カロリー計算に関する能力」(81人)35%と下位であり、接客中心の店舗では活用する機会が少ないことが推測される。

この項目の選択内容は34番までであるが25の選択内容が50%以上と高く、多岐に渡る知識・能力が求められていることが分かる。

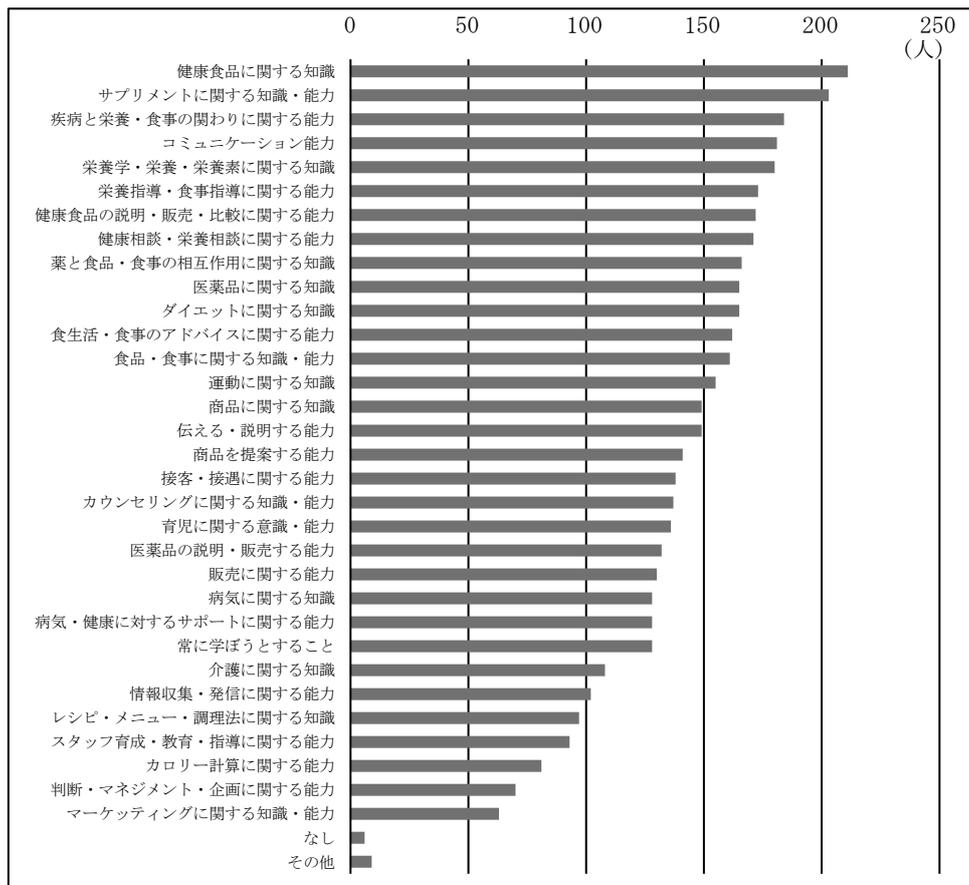


図3 管理栄養士として求められている知識・能力 (n=233人)
 就職したあと、管理栄養士に求められていると感じる知識・能力をカウントした。複数回答可とした。

この結果から、ドラッグストアという会社の特徴から、必要とされる能力は“販売する商品に関する知識”と“販売に関わる能力”である。管理栄養士が販売に関わる商品は健康食品やサプリメントが多いことから「健康食品やサプリメント」が挙げられ、来客に商品の説明や販売するために「コミュニケーション能力」の必要性を感じていることが推察される。獲得したい資格、商品知識は、ともにサプリメントに関することであることから、求められている要求に対応しようとする管理栄養士の姿が垣間見られる。次いで栄養相談・食事等に関する指導が挙げられている。これは、社会のニーズの変化からドラッグストアは健康サポート薬局^{3) 4)}として、住民から健康の維持増進に関する相談に適切に対応することが求められ、管理栄養士が採用されたことによって、この課題への対応が機能しはじめていることが推察される。地域住民に健康サポート薬局^{3) 4)}の役割が浸透し、管理栄養士の専門性を活かした栄養相談や指導の割合がさらに高まることにより、ドラッグストアにおける管理栄養士の存在が認められてくることが示唆される。また、「医薬品に関する知識の獲得」も高いのは、ドラッグストアでは登録販売者の資格取得が必須であることより、栄養管理だけでなく、薬

剤も含めた知識を加えることで、生活習慣病の見直しを提案でき、管理栄養士の活躍する場がさらに広がる可能性が示唆される。

5. 地域

1) 地域住民の健康情報拠点として実施するサービス (図4)

店舗でのサービスでは、「食・健康に関する情報提供」(197人) 85%、「健康測定実施」(190人) 82%、「薬・健康に関する情報提供」(181人) 78%、「栄養相談」(174人) 75%が上位に挙げられていた。イベントでは、「運動教室」(109人) 47%や「ミニセミナー」(88人) 38%と、いずれも50%を下回っていた。高齢社会へのサービスである「バランス弁当などの食の提供」(69人) 30%や「集いの場の提供」(67人) 29%と30%を下回り、店舗で実施するサービスとして挙げられた割合は低かった。

しかし、図4には示していないが、勤務3年以上の者は、健康情報拠点として、「運動教室」、「介護用品のアドバイス」、「ミニセミナー」、「バランス弁当などの食の

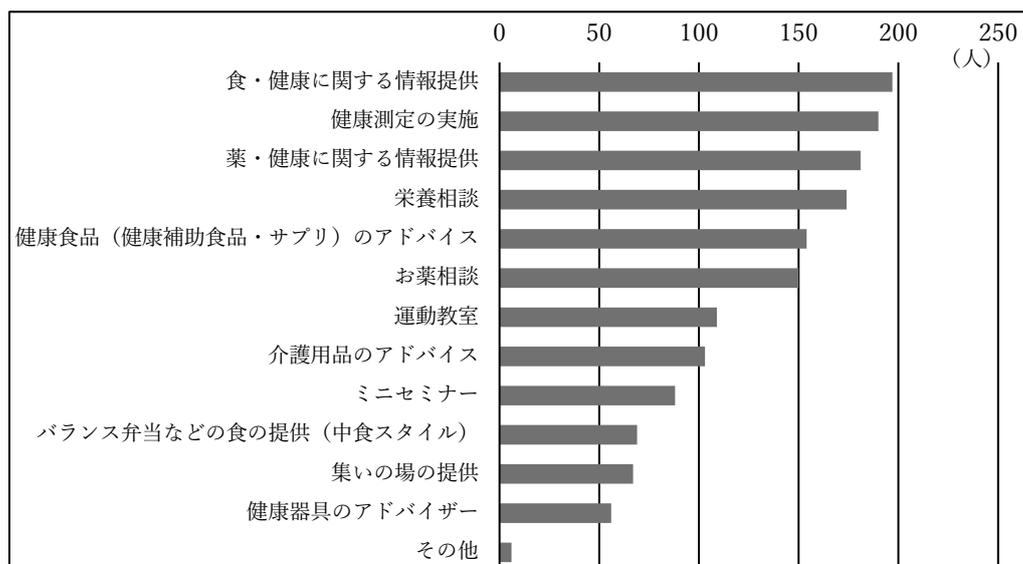


図4 地域住民の健康情報拠点として実施するサービス (n=233人)
地域で働く中で、住民が必要としている健康情報はどれかをカウントした。複数可とした。

提供」,「集いの場の提供」,「健康器具のアドバイザー」は,必要なサービスという認識が高いという結果を得ている。また,「気軽に安心して相談できる環境づくりやスキルアップ」を75%以上の者が必要であると考えている一方,高齢社会への対応として「ケア・マネージャー」や「社協や介護施設との連携」はいずれも20%台と低いという結果も得た。さらに,「特定健診・保健指導」「なんでも栄養相談」「離乳食講習会」「妊婦栄養教育」「育児相談」「まちの栄養相談室」「健康祭り」「地域料理教室」,「町の運動相談室および教室」「健康ランチレストラン」を地域に根ざした薬局となるために実施したい事業として認識している結果を得ている。

これからドラッグストアが健康サポート薬局³⁾⁴⁾として地域住民の健康情報拠点になるためには,医療機関,訪問看護ステーション,ケア・マネージャー,管理栄養士など多職種との連携を積極的にすすめ,地域包括ケア推進の一役を担う必要がある。

本調査で対象とした管理栄養士では,地域住民の健康情報拠点に向けたサービス,働き方,地域に根ざしたドラッグストアとなるために行いたい事業に関する回答は,全体では高齢社会における地域向けの事業は少なかったが,勤務年数3年目以上,そして継続して勤務する意志のある者は,地域活動および高齢社会に対応した事業に積極的に関わることに前向きな姿勢が認められた。これを維持し伸ばすためには,会社がドラッグストアの将来像を具体的に描き,さらに強いメッセージを発信し浸透させることで,管理栄養士からチーム薬局の一員として,地域に貢献するという使命や関心を引き出し,それを実現していくような施策が必要と考える。また,従来の施策に加えて,相談事業を充実させるために長期の外部研修,高齢社会の先進国と言われる諸外国への海外研修などの導入による研修の充実や人事交流が挙げられ,視野が広がり,管理栄養士として専門性が発揮できないでいる現状が改善され,地域住民から信頼され認知され,地域や高齢社会に対応できる健康情報拠点としてのドラッグストアが誕生し,管理栄養士の存在価値も大きく変化する可能性が示唆される。

6. 今後の夢 (自由記述)

ドラッグストア管理栄養士としての今後どうしたい(どうなりたい)を夢として自由記述をしてもらった。記述した者は予想以上の約半数で,具体的な長文が多く,前向きに自分の業務をとらえている姿を伺うことができた。

抽出言語と勤務年数との共起から「管理栄養士」「気軽」「健康」「相談」が共通言語として出現した。共起ネットワークから「管理栄養士として,地域で気軽にお客様が健康相談に来る活動で存在を認知されたい」等,9要因に分類された。(図5)9つの要因をつなぎ合わせてドラッグストア管理栄養士の今後の夢を考察してみると,“地域住民から気軽に健康相談が受けられる薬局”に変化することを望み,その薬局には気楽に健康相談などができる管理栄養士がいて当たり前のようになり,社会的に認知されたいと考えている。そのための具体的な取り組みの内容として,イベントの開催,健康相談,身体測定の実施,食事のアドバイスなどをして,買い物ついでに運動ができ,気楽に立ち寄れるドラッグストアを目指して,地域住民の一次予防に寄与したいと考えていることが推測される。また,健康食品やバランスの良い弁当などの自社商品の開発や,行政,病院,薬剤師などと連携した疾病予防のセミナー開催を主導し,住民へ質の高いサービスを提供することで,ドラッグストアにおける専門性をもった栄養士の存在感を一層高めたいと希望している。さらに,特定保健指導や在宅栄養指導という仕事の実践も望んでおり,そのためには自身が知識を高め,専門職としてのスキルアップを図る必要があることを認識していることが伺える。

「地域に根ざした健康サポート薬局³⁾⁴⁾への質的な変化」については,地域や来客者に質の高いサービスをしたいという気持ちがよく表れている。教育機関で,臨床栄養学・応用栄養学・公衆栄養学・栄養指導論などを学んでおり,地域で必要とされ根付いていく基礎的な栄養やスキルを持っていることから,多数の管理栄養士が持ち合わせている潜在的能力を発揮できるような体制を整えることにより,健康サポート薬局³⁾⁴⁾として地域住民に根ざし,地域住民の健康の維持・増進を積極的に支

援する役割を果たすことができる可能性が示唆される。

しかし、こうした管理栄養士のスキルを十分に発揮できる環境整備の必要性も浮かびあがってきた。実際の記述にも、“管理栄養士のみによる組織の立ち上げ”や“女性の多い職場ゆえにライフステージごとに活躍できる職場環境”を望む声が上がっている。櫻井ら⁵⁾は、保険薬局におけるスタッフの組織や職務に対する意識と安全意識の関連性に関する研究を行い、一般職と専門職の両職種が、組織への一体化と共通価値の内在化を意味する組織コミットメントを高めるためには、経営者側が市民活動や組織管理に関する意識に重点をおき、自己啓発や組織内コミュニケーションが活発になるような組織風土の醸成を心がけることが重要であると指摘している。調

査対象としたドラッグストアの職員構成は専門職がほとんどを占め、本部の管理職は一般職で占められている。また、勤務3年以内の者が6割を占め、離職を考えたことがある者が8割であるという本調査結果を鑑みると、櫻井ら⁵⁾が指摘している自己啓発や組織内コミュニケーションが活発になるような組織風土の醸成は非常に重要な対策であると推察される。離職率を低減させることは、スペシャリストの育成にもつながり、いって言えば、会社の発展につながると考えられる。また、櫻井ら⁵⁾は職種による影響の違いに配慮し、薬剤師には専門職としての意識の向上につながる研修やOJTなどにより、個別の施策を検討することが安全意識を高めることにつながっていくことも指摘している。ドラッグストアに勤務する管理栄養士

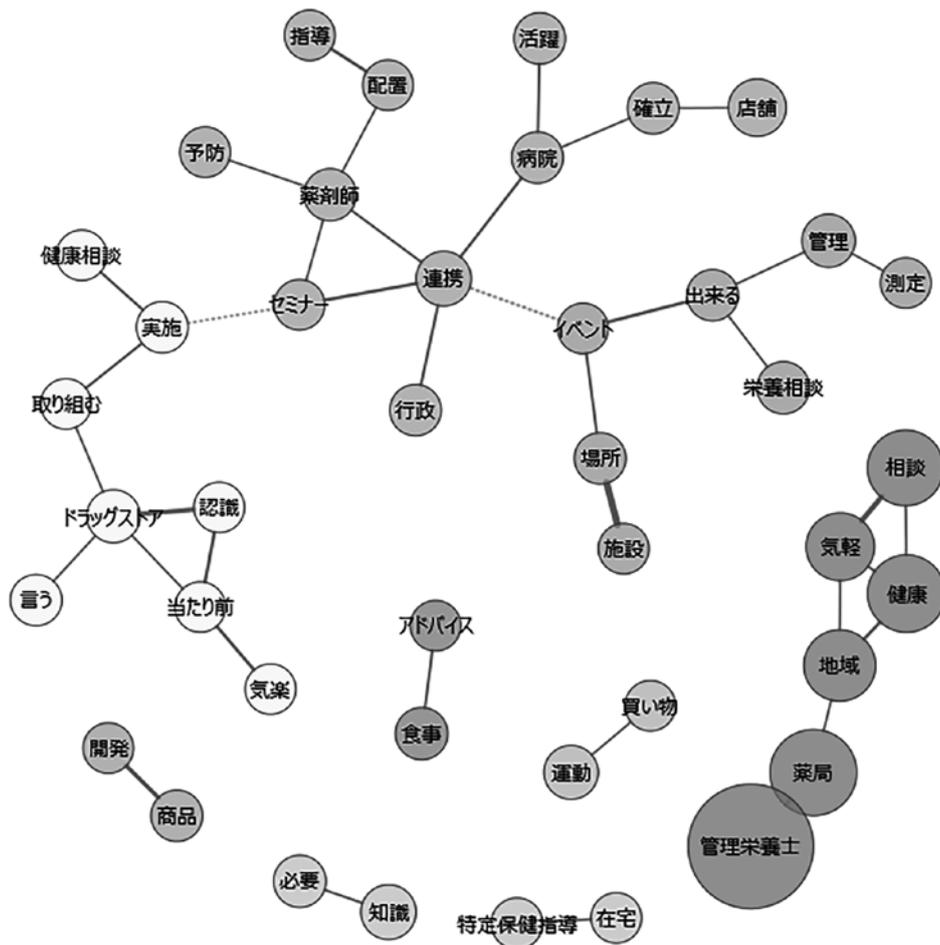


図5 今後の夢の自由記述のKH Coderによる抽出語共起ネットワーク（出現回数：4以上、描画数：30）
ドラッグストアのあるべき姿を自由に記述してもらった。記述の中で出る言語をKH Coderという自由ソフトウェアを使って分析した。抽出された言語が多い順に○が大きくなり、言語が繋がりが図形化したものから、カテゴリーをつくった。

の研修も同様に意識の向上につながる研修や自由闊達に意見を出し合い、出された意見を採用した施策検討が必要であると考え。前述した自由記述にみられるような管理栄養士によるライン組織の構築の必要性が示唆される。

また、他団体との連携を望む内容に、“医療機関と連携した薬局の訪問栄養指導”“薬局に明確な配置基準の設定”“居宅療養管理指導の実践”を望む声もあったが、これらの実現には、経験して獲得できる知識・技術が必要であり、勤務年数3年未満の管理栄養士が業務とし、利用者への的確なアドバイスができるかどうかについて、能力的に疑問を感じる。さらに、自分たち管理栄養士が社会的に認知されるには、実績を積み、ドラッグストア管理栄養士の見える化を自分たちで勝ち取るプロセスや意気込みが必要であるが、自由記述からは具体策は見えてこなかった。今後、こうした意欲を伸ばし、実績をまとめ、学会などで発表できる能力を培う社内研修が望まれ、これもまた、組織構築の一環と考える。

おわりに

薬局における管理栄養士の勤務実態、要求される知識・能力¹⁾等を明らかにするとともに、地域に根ざしたドラッグストアに勤務する管理栄養士に要求される知識・能力・夢をまとめてみた。また、管理栄養士の組織管理に対する姿勢や、職務に対する意識も分析し、管理栄養士が意欲をもって働くことができる環境、専門性を活かした役割を提案することを目的とし、無記名の自記式アンケート調査を行った。

印象的であったのは、今後の夢の自由記述に記載した者が予想を上回るほど高かったことである。仕事内容について、自分の意見が出せる機会としての期待感があるからで、自由記述の内容の多さ、具体的な長い記述文からも推測できた。管理栄養士として、「地域に存在を認められたい」「薬局には管理栄養士がいて当たり前」「気軽に相談される存在」等々、地域に根ざしたドラッグストア管理栄養士の夢の自由記述は驚く程多く書かれており、前向きな希望を抱いていることが感じられた。しかし、地域において、ドラッグストアに管理栄養士がいることは、

ほとんど知られていないのを認識しており、存在のアピールを積極的に行い、認知度を上げることで、自己実現、成長実感を高めるためには、本人たちのスキルを上げる研修が重要であり、会社の役割でもある。

組織では「管理栄養士だけが所属する部署を作成。薬剤師や他の方がいない組織の立上げ。これにより、管理栄養士としてすべきことを管理栄養士の上司が統率することでチームワーク団結を増やす」の記述があり、多くの者が希望していると考えられる。大きな組織であるがゆえに、現場と企画部門（本部）が、あるべき姿や目指す方向性などの情報共有が肝要であり、短期・長期計画をきちんと立て、評価をし、一人一人の働きがいにつながる仕組みを作ることが望まれる。また、計画作成には希望する全ての管理栄養士が参加できるプロジェクトチーム編成で横断的な交流を経てまとめる方法を取り入れることで、成長実感が得られ、離職率の低減につながるものが考えられる。

全体的には、ドラッグストアで“地域の役に立つ管理栄養士になりたい”という思いは強く、非常に発展性のある業界であることが示唆される。筆者は、本調査から報告書を作成し、会社に提出させていただいた。その後、意欲ある管理栄養士2名を会社支援のもと、藤田医科大学の大学院に通わせ、リーダー育成に力を入れてくれている。

以下、ドラッグストアに勤務している管理栄養士へのエールである。

ドラッグストア勤務管理栄養士は、歴史が浅く、スギ薬局(株)においても、6割が勤務年数3年未満という若い集団である。管理栄養士特有の業務の確立は未確定のままであるが故に、自分達で業務確立をするという面白さがある。そのためには、大学で学んだ知識を駆使して、地域住民から声をかけられる存在を作ることである。知識はもう一度教科書を読み返せばいい。卒業論文の経験を生かして、自分たちの業務をまとめ、学会発表することで、存在感が増す。どうまとめていいか解らない時は、大学の先生を尋ねれば、力になってくれるはずである。自己研鑽も怠ってはならない。できるだけ、多くの学会に入って、出かけてみると、目標となる人財と巡り合うこと

ができる。

「あいさつ」「えがお」「へんじ」で、輝くドラッグストア管理栄養士の姿が見えることを期待している。

引用文献・参考文献

- 1) 大宮めぐみ, 中原由衣, 前田紗貴子, 清原昭子. 薬品小売業で働く管理栄養士の勤務実態と要求される知識・能力. 中国学園紀要. 2012; 11: 1-12.
- 2) 樋口耕一. 社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して. ナニシヤ出版. 2014
- 3) 健康サポート薬局について. 愛知県ホームページ. 2019 (6/7 更新).
- 4) 舘知也, 吉田阿希, 杉田郁人, 林勇汰, 江崎宏樹, 斎藤康介. 岐阜市における「健康サポート薬局」としての薬局サービスに関する調査. 医療薬学. 2016; 42: 429-444.

5) 櫻井秀彦, 奥田光子, 高木美保, 中川明子, 我藤有香, 荒川行生, 早瀬幸俊. 保険薬局におけるスタッフの組織や職務に対する意識と安全意識の関連性に関する研究. JQSH.2011; 6: 3-21.

6) 江口澄子. ドラッグストアに勤務する管理栄養士のあり方に関する研究. 愛知みずほ大学大学院修士論文. 2019; 1-94.

— プロフィール —

江口 澄子 (元) 鈴鹿医療科学大学特任准教授
 [経歴] 1971年～2011年愛知県東海市役所 保育園, 保健センター, 市民病院を歴任, 2011年～2013年東海学園大学非常勤講師, 2011年～2014年名古屋栄養専門学校非常勤講師, 2013年～2015年鈴鹿医療科学大学非常勤講師, 2015年～2022年同大学准教授。[専門] 公衆栄養学, 給食経営管理学。

Questionnaire survey on how registered dietitians working at drugstores should be

Sumiko EGUCHI

(former) Specially Appointed Associate Professor,
Suzuka University of Medical Sciences

Key words: Drugstore, knowledge and ability of registered dietitian, health information base, dream

Abstract

At the time of retirement, I received a request from Bulletin Committee, and while I was wondering if I had no experience as an educator (researcher), I decided to spell it as a senior registered dietitian with the intention of giving a yell to students. Since this university is a medical university, I thought that I would naturally choose a “hospital” or “long-term care health facility” for employment, but nowadays there are many hopes for a “drug store”. Although the number of dietitians working at drugstores is increasing, the actual working conditions are often unknown, and there are very few surveys and studies on the work content and required knowledge and abilities. So, from my poor master’s thesis, I summarized the knowledge, abilities, dreams, etc. required of a registered dietitian working at a “drug store”. We hope that you will understand what you should learn in your school days and set your goals by referring to the subjects that you can learn and use in your school days, the abilities required in the workplace, and the ideal way of a registered dietitian that is useful in the area that your seniors want.